

第2回 大熊町ゼロカーボンビジョン策定有識者会議 会議概要

1 日 時：令和2年12月17日（木）9時00分～11時30分

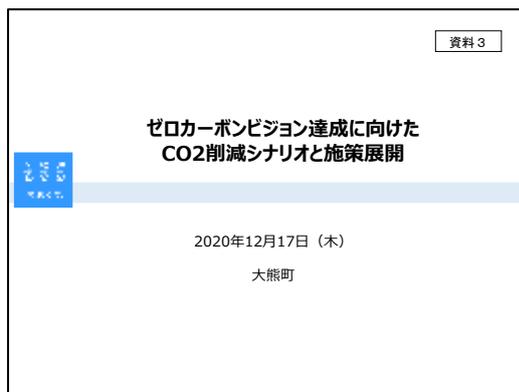
2 会 場：大熊町役場 大会議室

3 委員出席者：

中田俊彦（座長、東北大学工学部教授）、亀山康子（国立環境研究所社会環境システム研究センター長）、大倉紀彰（C2ES）、鈴木精一（一般社団法人福島県再生可能エネルギー推進センター代表）、石井和弘（町議）、土屋繁男（行政区長会）、梅宮功（副町長）

4 議事概要

- ・ 中田座長からの挨拶ののち、亀山委員、大倉委員、鈴木委員より話題提供。
- ・ 事務局より、ゼロカーボン達成に向けたCO₂削減シナリオと施策展開について説明。
- ・ 復興を推進し他地域を牽引するようなビジョンにするため、2040年にゼロカーボン達成する先導的なシナリオを選択するべきだということ意見が一致した。
- ・ 併せて、町民や事業者が無理なく受け入れられるように、政策的な枠組み・支援策、分かりやすい情報発信が不可欠との意見が多数出された。



5. 議論の要約

（亀山委員からの話題提供）

- ・ 地球の平均気温は既に1850年産業革命前から1℃以上上昇している。たった1℃でも異常気象や海面の上昇などが発生し、世界が切迫さに気づき、パリ協定が結ばれた。
- ・ 最近では気温上昇を2℃ではなく1.5℃以内に抑える必要があるという認識が広まりつつあるが、そのためには、2050年あたりでほぼゼロに近づけなければならない。
- ・ 一人当たりの排出量を世界で比較すると、先進国では日本だけが微妙に悪化しており、温暖化対策が停滞していると言わざるを得ない。イギリスは1970年代から順調に減らし続けて現在は1880年代の水準まで削減してきている。
- ・

- ・ 2050年のネットゼロ達成のためには、4つのゴールが必要だ。「エネルギーの脱炭素化」、「エネルギーの効率的利用」、「エネルギーサービス需要の低減」、「森林保全、CO2以外の温室効果ガス対策」である。
- ・ 今後は「エネルギーサービス需要の低減」が特に重要。一般的に経済界に不評ではあるが、逆にこのことを新たなビジネスに繋げたり、人々の暮らしが豊かになったり便利になるようなまちづくりを試していくことが求められる。
- ・ EUでは早くから新型コロナ対策と気候変動対策を掛け合わせる「グリーンリカバリー」が議論されており、まさにグリーンの発想で暮らしやまちづくりの再編を進めているところである。

(大倉委員からの話題提供)

- ・ 大熊町がゼロカーボンの実現に向けて努力している姿は、世界から共感を集めることにつながる。だからこそ、世界のモデルケースになるような明確で高水準のビジョンを打ち出し、町の志に共感する移住者が増え、大熊町に住むことがブランドとなるといった流れを生み出していくことを期待したい。
- ・ いったん環境が損なわれると、回復することがいかに大変か、原発災害で身をもって体験している。気候変動対策も同様であり、大熊だからこそ、未然防止原則に基づいてゼロカーボンを進めていくことに意味がある。
- ・ 地域でお金を回していくことが大事な視点。エネルギー代金は地域経済の10%に相当し、この流出を抑えれば地域の基幹産業となる。原発無き後、また復興需要や石炭火力が去った後の浜通り全体の脱炭素経済への公正な移行を先導していただきたい。
- ・ この大きな移行を実現するには、政策的にきちんと位置付けることが不可欠であり、ZEH・ZEBやEVなどに関する大熊町の独自ルールの策定が必要である。

(鈴木委員からの話題提供)

- ・ 県職員の時から再エネの推進に携わってきたが、最も懸念されることは、プレイヤー(事業主体)がないということである。だから自ら福島発電を立ち上げて再エネ導入に取り組み、いまは30人の社員がいる会社に成長している。
- ・ 分かりやすく高い目標設定が重要である。福島県は2040年に再エネ100%相当量の導入目標を立て飛躍的に導入が進んでおり、計画中の風力が稼働すると、100%を達成できる見込みである。風力の大量導入にあたっては前例のない共用送電線のプロジェクトを推進してきている。
- ・ 地産地消のまちづくりにも取り組んでいる。葛尾村ではエコ・コンパクトビレッジを掲げて葛尾創生電力株式会社を設立し、太陽光発電設備、蓄電池、自営線等を導入したスマコミ事業を行っている。

(事務局から資料の説明)

- ・ 2050年までの道筋として、3つのシナリオを検討した。
A：なりゆきシナリオ…比較のために何も対策を講じなかった場合。
B：平均的シナリオ…国の目標と合わせて2050年にゼロカーボンを目指す場合。
C：先導的シナリオ…国より先んじて、2040年にゼロカーボン、2050年にはマイナスカーボンを目指す場合。Bよりも徹底した対策が必要となる。
- ・ 化石燃料調達によるエネルギー代金の流出に関する計算を行ったところ、なりゆきのままでは、2050年までに、累積で約800億円のエネルギー代金が大熊町から域外に流出する可能性があることが判明した。
- ・ これに対し、シナリオBでは、流出するエネルギー代金は約350億円、シナリオCでは約263億円となる。可能な限り早期に再エネの導入及びゼロカーボンを達成し、域外流出を抑制することが不可欠である。
- ・ 基本戦略に基づき、6つの取組方針を提示。①再生可能エネルギーの最大限導入、②地産地消システムの構築、③快適で省エネなライフスタイル、④豊かな森里川海との共生、⑤ゼロカーボンを源泉としたまちづくり、⑥官民一体の推進体制。
- ・ 町民の皆様から、ゼロカーボンを力強く後押しするご意見から、生活にどのような影響があるのか分からず不安を抱く声まで様々いただいている。ゼロカーボンだけが唯一の判断基準では決してなく、いろいろな視点から全体最適の政策判断を進めたい。

(意見交換のポイント)

①大熊町が目指すべきゼロカーボンシナリオ

- ・ 将来に向けての目標は、チャレンジングなシナリオCを据えたい。明治維新から150年蓄積した文化を変えようという大きな取り組みであり、次世代への置き土産として長期的なスパンで取り組むべきである。(中田委員)
- ・ シナリオはCしかないという意見である。平均的なシナリオBは、日本全国でやらなければならないもので、大熊町の個性は出ない。(大倉委員)
- ・ シナリオはCが良い。日本は「3E」にも基づいて安い電源を追求してきたが、エネルギー代金の流出という観点は重要視されてこなかった。ひとつの町でこうした視点を明確に示してビジョンを立てられることは素晴らしいこと。(亀山委員)
- ・ シナリオはCの方が良いのは当然だ。ゼロカーボンの視点だけでなく、下野上の新しいまちづくり等と紐づけて町民がイメージを持ちやすくするべきである。(鈴木委員)
- ・ シナリオはCが良いと思いながらも、大熊町に住もうとしている人々にどう伝わっていくのかは配慮が必要だ。例えば、ゼロカーボンに合わせた生活をすると大変そうだ、面倒そうだ、大熊に戻ることをやめようか、と考える人もいるかもしれない。シナリオCを達成すれば、世界に誇れる大熊町となると思うが、町民の大きな負担になるようなルール化は、課題として認識しておかなければならない。(石井委員)

- ・ 先導的な C を目指したい。住む町民にとって負担にならない形となるようにするためにも、ゼロカーボン条例で基本理念・基本政策を掲げるべきである。(梅宮委員)

②シナリオ実現に向けた課題

○理解醸成

- ・ これから整備される住宅・建築、自動車を最善のものとし、それを標準装備としていくことがポイント。大川原住宅や役場についても同様である。(大倉委員)
- ・ 新聞で、ZEHは設備投資に追加で300万円、投資回収には約10年間かかり、経済的余裕がなければなかなか難しいという記事を見た。町として推進していくのであれば、町民を後押しできるような支援策を検討してはどうか。(土屋委員)
- ・ 大熊ルールを作るのも良いが弾力的・段階的に運用するべきだ。全てを満たさないと大熊に住めないのではなく、例えば最初の10年はいくつか満たせば良いとし、一方で積極的にやりたい人には町から100%補助といったようにする。やる気のある人はさらに歓迎します、という姿勢を示すことは重要。(中田委員)
- ・ 時間軸を分かりやすく示すために、どうやって大熊が変わって、大熊がどう再生していくのかを、絵本のようなもので作っていくのが良いのではないか。(中田委員)

○発想の転換

- ・ 産業誘致との関係についても、これからはどの企業もゼロカーボンの観点を持たざるを得なくなる。何より発想の転換が重要。今後は大量生産の時代ではなく、モノやサービスに付随する価値を高めることが経済成長の源泉である。(大倉委員)
- ・ ZEHの断熱については、いくらかかり、何年で元をとるのかはあまり重要ではなく、むしろ、快適に暮らすことが出来る意義が大きい。例えば、お風呂場の高齢者の転倒による脳卒中が減少するなど、健康寿命を伸ばすことにつながる。(中田委員)

③その他

○多様なエネルギーの活用

- ・ どうしても電化できないものが残ってくる。エネルギーキャリアは電気、熱、自動車燃料、この3つを押さえておけば、柔軟な対応が可能となる。(中田委員)
- ・ 熱の話は重要であると認識しており、例えば、バルセロナは市の条例で新築・改築の場合には、太陽熱温水器をつけなければならないことになっている。また、広域的に水素を活用する連携を進めることも可能である。(鈴木委員)
- ・
- ・

(以 上)